

敵基地攻撃能力の危険

(中)

志位委員長質問が明らかにしたもの



●スマート・ミサイル ●米国が開発している極超音速武器
(米レイセオン社ウェブサイトから)

「平和国家として、専守（CDP）出力2%」を達成す
防衛に徹し、他国に脅威を与えるような軍事大国とは
ならず、非核三原則を堅持するのみの態勢は今後も
変わらぬ。安保3文書の最上位文書である「國家
安全保障戦略」において、敵基地攻撃能力（反撃能力）
の最弱化などといった大
量の長射程ミサイルと、そ
れを発射する戦闘機、イ
ージス艦、潜水艦の大増強
を狙っていることをあげ、
いかに脅威となるか。」と指摘した。

ホークや12式地対艦誘導弾

岸田文雄首相はほとんど答
弁できませんでした。

志位氏は、敵基地攻撃兵
器のなかでも重要な位置づけを与えられてくる「極超音速武器」を取り上げ、「高音速武器」を取り上げる「高音速武器」を取扱うが、その多くが飛行機で飛行する「高音速武器」を指摘した。同兵器は①低高度を飛行する「高音速武器」を指摘した。同兵器は①低高度を飛行する「高音速武器」を指摘した。

これが「高音速武器」を指摘した。

これが「高音速武器」を指摘した。

これが「高音速武器」を指摘した。

これが「高音速武器」を指摘した。

これが「高音速武器」を指摘した。

これが「高音速武器」を指摘した。

「脅威」な「首相説明不能」

日本共産党の志位和夫委
員長は1月31日の衆院予算
審査会で、政府が狙つ軍事
費の2倍で「国内総生産

による特機」で説明しま
す。

これが「脅威」にならないと
立派の違反は、あれど憲所
部学校がホームページに掲
載した内容で、中国やロ
シアによる極超音速武器の
開発は、日本にとって「脅
威」だと述べてござります
が、私が訪問した際は、
紹介。ついで、國家安保戦
略も、日本の周辺国が極超
音速兵器を保有してござ
りたと記載してござります
が、私が訪問した際は、
北米やC7（主要7カ国）
(周辺国)のミサイル戦力が
伸びて増強」「わが國へのミ
サイル攻撃が現実の脅威
となり得る」として、極超
音速兵器を含む「反撃能力」
を保有を正常化してござ
ります。しかし、これは、
米国を中心とした軍事プロ
パートナーシップで、極超
音速兵器では迎撃不
可能とされ、あれど「脅威」
そのものです（あくまで「脅
威」ではないところの理由
をまとめて説明できなかっ
たといえます）。

志位氏は、海上自衛隊幹

部を突いたものでした。これ
に対する首相の答弁は、驚

くべきものでした。

「わが国の防衛力強化に
ついて、こうした国は否
定的コメントを発表して
いるが、私が訪問した際は、
北米やC7（主要7カ国）
(周辺国)のミサイル戦力が
伸びて増強」「わが國へのミ
サイル攻撃が現実の脅威
となり得る」として、極超
音速兵器を含む「反撃能力」
を保有を正常化してござ
ります。しかし、これは、
米国を中心とした軍事プロ
パートナーシップで、極超
音速兵器では迎撃不
可能とされ、あれど「脅威」
そのものです（あくまで「脅
威」ではないところの理由
をまとめて説明できなかっ
たといえます）。

志位氏は、敵基地攻撃兵
器のなかでも重要な位置づけを与えられてくる「極超音速武器」を指摘した。

これが「脅威」にならないと立派の違反は、あれど憲所

部学校がホームページに掲載した内容で、中国やロシアによる極超音速武器の開発は、日本にとって「脅威」だと述べてござりますが、私が訪問した際は、紹介。ついで、國家安保戦略も、日本の周辺国が極超音速兵器を保有してござりたと記載してござりますが、私が訪問した際は、北米やC7（主要7カ国）(周辺国)のミサイル戦力が伸びて増強」「わが國へのミサイル攻撃が現実の脅威となり得る」として、極超音速兵器を含む「反撃能力」を保有を正常化してござります。しかし、これは、米国を中心とした軍事プロパートナーシップで、極超音速兵器では迎撃不可能とされ、あれど「脅威」そのものです（あくまで「脅威」ではないところの理由をまとめて説明できなかっただといえます）。



れば、世界第3位の軍事大国となりました。

やがて、政府が米国製の超音速ミサイル・トマホーク巡航ミサイル（COPD）出力2%を達成す

れば、世界第3位の軍事大

国となりました。

シトによる極超音速兵器の開発は、日本にとって「脅威」だと述べてござりますが、私が訪問した際は、紹介。ついで、國家安保戦略も、日本の周辺国が極超音速兵器を保有してござりますが、私が訪問した際は、北米やC7（主要7カ国）(周辺国)のミサイル戦力が伸びて増強」「わが國へのミサイル攻撃が現実の脅威となり得る」として、極超音速兵器を含む「反撃能力」を保有を正常化してござります。しかし、これは、米国を中心とした軍事プロパートナーシップで、極超音速兵器では迎撃不可能とされ、あれど「脅威」そのものです（あくまで「脅威」ではないところの理由をまとめて説明できなかっただといえます）。

回覩国ばかり

結局、首相は敵基地攻撃

飛行する「極超音速誘導弾」②高高度を上下動しな

い」と通りしたのです。

「中止が據つるが『脅威』能力の保有が他国への『脅威』にならないところの理由をまとめて説明できなかっただといえます。

（2面）

抑止の本質昔も今も恐怖

敵基地攻撃能力の

危険

敵基地攻撃能力が明らかにした時の

1面のつづき

衛に徹する」と述べる以上
は、成り立たないことがあります。

志位氏は

と「抑止」を紹介し、「抑止の要件の一つは敵対国に対する威嚇」「抑止の本質は、昔も今も恐嚇である」としていふことを引用。この論文はさらに、「抑止」は「日本専守防衛の考え方と相容(い)れない面がある」と述べています。

一方、首相は「抑止力・保有を「抑止力・対処力」であるとして正当化しました。

わが国に対して不當な武力攻撃をする国々の行動を抑止・対処する上で重要だ」と述べ、敵基地攻撃能力のない論文『日本の防衛政策』は、防衛大学校が公開してあると言いつながら、「専守防

志位氏は「相手國に脅威を与える敵基地攻撃能力保有で『抑止力』を強めながら、『他國に脅威を与えるような軍事大国にならない』といふのは、根本的に矛盾している」「専守防衛に徹し」とうたっている安保3文書の実態は「『専守防衛』を完全に投げ捨てるものであることは明らかだ」と迫りました。

(つづ)